

12月ワークショップのお知らせ

愛知排泄ケア研究会では、毎月皆さんに日常の排泄ケアに直接役立つ知識やスキルを学んでいただいています。そして、毎年12月のワークショップは、そこから少し視野を広げて、排泄ケアを取り巻くシステムや制度、あるいは一般市民に向けての排泄ケアのPRなどについて、皆さんが参加できるようなかたちで話し合い、交流していただく時間を企画しています。

今年は、やはり、この話題を抜きにしては歳末を暮らすことはできないでしょう。そう、「あの日あの時」について考えるワークショップです。

今年のテーマは..

「私の3・11ー今居ること、これから、を考えるー」

「2011年3月11日14時46分18秒、皆さんは、どこで何をしていましたか？」…この問いを、今年何度聞いたことでしょうか？数え切れないほど繰り返された「国を揺るがす大災害」という言葉。識者、専門家といわれる方が、多くの「検証」をして、今後来るべき次の激甚災害への対策を、という情報にはまだ尽きることがありません。被災地から少し離れている立場の人間であればなおさら、これらの情報に圧倒されるばかりと覚えることもしばしばかな？と思います。

勿論、東海、東南海地震をいずれ迎えることになる私たちが、これらの情報から学ぶことは無尽蔵にあると思いますが、ちょっとその前に。私自身は、今年、何を考えて行動してきたのか？困難に対してどのような力が発揮できたか？自分にとって頼りになるもの、守りたいものはなんだったか？…そんなことを一度ごくごく自分自身にひきつけて考えてみるのはどうでしょうか？

そして、自助・共助といわれる、自分たちで創り出していくべき「困難に立ち向かうための社会資源」をさまざまな角度から考えてみたいと思います。

【日時・会場】

12月18日（日） 名古屋大学医学部医系研究棟1号館地下1階会議室

午前の部（10：00～12：30）：グループ・ワーク「私にとっての3・11」
午前からの参加希望者は、グループ分けをして、ワークシートなどに沿って話し合いを進めていきます。

午後の部（13：30～16：30）：ゲストを交えたパネル・ディスカッション

【ゲスト・コメンテーター】

中村羊一郎先生：静岡産業大学教授

高校教諭を経て現職。専門は日本民俗学。民衆が培ってきた生活文化の中には、勿論防災、減災のための伝聞やセイフティーネット創りのための知恵が詰まっています。各地元への聞き込みから得た中村先生のこれらの知識は、総務省災害伝承データベースにも活用されました。民俗学からみた、災害、災難への人間の対処力について、私たちへのヒントはあるか？古事記の昔から現在まで紐解いて、事例を通して教えてください。

井上きみどり先生：ノンフィクション漫画作家

仙台在住の漫画家。「子供なんか大キライ」「オナナの病気をお話ししましょ」など代表作は多く、今回、ご自身が仙台で被災した直後から被災体験、被災地、支援者の活動を雑誌に連載し、11月18日に単行本として刊行。被災当事者の視点から、また仙台以外の被災地を取材された経験から、現状の裏表を率直にお話いただきます。

大島伸一先生：国立長寿医療研究センター総長

当研究会の創立者にして、現在顧問。この研究会の会員には説明不要かもしれませんが。高齢者のよりよい医療・ケアの提供のためにどうしたらいいのか？実行するためにどうすべきか？のために日々働いておられるようですが、なかなかその活躍が下々のものには謎かもしれません。ただ、当然、今回の震災でもその立場で現場、そして何よりも関係する官僚や政府の、ある意味日本の中枢にも日参してこられているので、その辺の現状をコメントいただきます。

参加希望の方は、別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXか郵送にて、下記申し込み先までお送り下さい。

- * 午前参加の方には、事前のワークシートなどの資料・ご案内をお送りします
- * 非会員の方も参加可能です。別紙申込用紙にて、お申し込みください
(参加費無料)

<申し込み先>

FAX: 052-744-2983

郵送： 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学医学部泌尿器科学教室 高田宛

FAX: 052-744-2983

12月ワークショップ参加申込用紙

参加者ご氏名 : _____

ご連絡先 TEL : _____

資料送付先ご住所 (午前の部に参加する方はご記入ください) :

〒 _____

参加希望について丸をつけてください

1. 午前の部のみ参加する
2. 午後の部のみ参加する
3. 午前、午後とも参加する